

精神疾患及び心身症のある児童生徒の 教育的支援・配慮に関する研究

-「心の病気」のある子供への支援(Co-MaMe)の提案-

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 病弱班

土屋 忠之

平成31年2月16日

国立特別支援教育総合研究所セミナー

精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育ニーズ (予備的研究等における成果)

・教育的ニーズ40項目(6領域)

| 領域 | 項目 |
|------|--|
| 心理 | 1.不安・悩み、2.感情のコントロール、3.こだわり、4.意欲・気力、5.自己理解、6.気持ちの表現、7.情緒の安定、8.気分の変動、9.自信、 |
| 社会性 | 10.集団活動、11.社会のルールを理解、12.コミュニケーションスキル、13.同年代との関係、14.家族との関係、15.教師との関係、16.異性との関係、17.他者への信頼、18.他者への相談、19.他者理解、 |
| 学習 | 20.学習状況、21.処理能力、22.聞き取り・理解力、23.読み・書き、24.記憶力、25.注意・集中、26.学習への意識、27.経験 |
| 身体 | 28.身体症状・体調、29.巧緻性、30.動作・体力、31.多動性、32.感覚過敏 |
| 学校生活 | 33.見通し、34.物の管理、35.登校・入室への抵抗感、 |
| 自己管理 | 36.睡眠・生活リズム、37.食事、38.服薬、39.病気の理解、40.ストレスへの対処 |

昨年度、日本育療学会学術集会、日本特殊教育学会大会にて
発表を行った

・深草・森山・土屋(2017)精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズに関する研究—
特別支援学校教員を対象とした調査より—,日本特殊教育学会第55回大会発表論文集 等

目的と調査対象

【目的】

これまでの研究から得られた教育的ニーズをもとに、精神疾患及び心身症の児童生徒を指導している教員から支援・配慮を集約して整理する。

【調査対象】

＜平成29年度＞

特別支援学校(病弱)に勤務する教員154名
(小学部44名、中学部72名、高等部35名)

＜平成30年度＞

特別支援学校(病弱)に勤務する教員151名
(小学部 55名、中学部54名、高等部36名、不明6名)

研究方法

【質問シートのイメージ(心理・社会性・学習の項目のみ)】

| 教育的ニーズの項目(内容の参考例) | チェック欄 | |
|--------------------------------------|-------|--|
| 1.不安・悩み (不安が強い, 悩みが頭から離れない) | | |
| 2.感情のコントロール(気持ちを抑えられない, すぐに怒ってしまう) | | |
| 3.こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| 4.意欲・気力 (目標がもてない, やる気がおきない) | | |
| 5.自己理解 (何が辛いのか自分でも分からない) | | |
| 6.気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | | |
| 7.情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう, イライラする) | | |
| 8.気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | | |
| 9.自信 (自分に自信がない, 自己肯定感が低い) | | |
| 10.集団活動 (集団の中にいると疲れる, ルールに従えない) | | |
| 11.社会のルールを理解 | | |
| 12.コミュニケーションスキル(あいづちがうてない, 人の話が聞けない) | | |
| 13.同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | |
| 14.家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| 15.教師との関係 (教師を信用しない) | | |
| 16.異性との関係 | | |
| 17.他者への信頼 (人が信用できない, 人と関わりたくない) | | |
| 18.他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| 19.他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

① 学校への訪問調査

- ・質問シートに児童生徒の教育的ニーズをチェック
- ・チェックした教育的ニーズについて支援・配慮を記述

研究方法

② 記述の分析

- ・意味のまとまりごとに分節化し、関連する内容をグループ化して見出しを見つけ、カテゴリーとした。さらに複数のカテゴリーの関連性から配置した図を作成した。
- ・分析は病弱教育を専門とする研究員3名で行った。
- ・平成30年度については、前年度にデータ数が少なかった項目について追加の調査を行い、同様の分析を行った。

③ 研究協議会

特別支援教育調査官、医師、研究者（教育、心理等）、特別支援学校教員から意見を得て検討を行った。

結果

1. 不安・悩み (94)

【カテゴリー及び支援の具体例】

課題

- ・不安が強いため教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- ・見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- ・心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

* 気持ちを聞く (18)

- ・話したい時にじっくり聴き、認める
- ・イライラすること等、感情を言葉にできるようにする

* 相談しながら行えるようにする (15)

- ・行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える
- ・不安や困難さを具体的に相談して共有していく

* 目標を設定して学習 (9)

- ・目標を細かく設定し、達成したら変容に気付かせる
- ・目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる

* スモールステップで行う学習設定 (5)

- ・一つ一つ教見本を見せたり、練習したりしてから行う
- ・少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

* 無理なく好きな活動ができるようにする (15)

- ・本人が好きな活動を行う
- ・授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす
- ・不安になりやすい場所、時間は避ける

* 見通しをもたせる (15)

- ・学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する
- ・初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明

* 対処方法を考えて取り組めるようにする (8)

- ・ロールプレイを行い、不適切な行動を体験・不適切な行動を考えて練習する
- ・あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける

* 将来に向けて学習する (5)

- ・高校進学についての知識を身に付けられるようにする
- ・実習で困った場合の対応方法を身に付けられるようにする

* 共感、理解する (4)

- ・その時に出来ていることをほめる
- ・否定的な言葉を使わずに接する

1. 不安・悩み (94)

【カテゴリーの配置図】

課題

- ・不安が強いため教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- ・見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- ・心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期 (37)

* 気持ちを聞く (18)

- ・話したい時にじっくり聴き、認める
- ・イライラすること等、感情を言葉にできるようにする

* 共感、理解する (4)

- ・その時に出来ていることをほめる
- ・否定的な言葉を使わずに接する

* 無理なく好きな活動ができるようにする (15)

- ・本人が好きな活動を行う
- ・授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす
- ・不安になりやすい場所、時間は避ける

試行期 (35)

* 相談しながら行えるようにする (15)

- ・行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える
- ・不安や困難さを具体的に相談して共有していく

* スモールステップで行う 学習設定 (5)

- ・一つ一つ教見本を見せたり、練習したりしてから行う
- ・少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

* 見通しをもたせる (15)

- ・学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する
- ・初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明

安定期 (22)

* 対処方法を考えて取り組める ようにする (8)

- ・ロールプレイを行い、不適切な行動を体験・不適切な行動を考えて練習する
- ・あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける

* 目標を設定して学習 (9)

- ・目標を細かく設定し、達成したら変容に気付かせる
- ・目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる

* 将来に向けて学習する (5)

- ・高校進学についての知識を身に付けられるようにする
- ・実習で困った場合の対応方法を身に付けられるようにする

35. 登校・入室への抵抗感(33)

【カテゴリーの配置図】

課題

- ・学校に行くことや、人と関わることが怖く、同学年の友だちに全く会えない。
- ・一対一の取組はできるが、教室に入れず、集団の活動ができない
- ・地元校での登校に抵抗が強い

受容期 (16)

* 学習場所を柔軟に変更する(9)

- ・他の児童生徒と会わない場所等、実態に合わせて場所を変更する
- ・体調に合わせて休憩しながら個室で学習する

* 共感、理解する(2)

- ・気持ち受け入れて、信頼関係を築いていく

* 無理なく好きな活動ができるようにする(5)

- ・簡単で好きな内容で学習したり、楽しい経験したりする

* 相談しながら行えるようにする(5)

- ・イライラした時の行動や学習内容、座席の位置等を相談していく

* 友達と関われるようにする(2)

- ・友達の様子を伝えたり、友達が登校を誘ったりする

試行期 (12)

* 少しずつ集団活動に参加していく(5)

- ・小集団や時間を決めて少しずつ参加していく

* 役割を持たせて活動する設定(1)

- ・学級で取り組んでいることに役割をもたせる

* 自分から伝えられるようにする(1)

- ・体調が悪い時、イライラする時は自分から伝えられる

安定期 (5)

* 将来に向けて取り組む(3)

- ・将来の自分を想像し、地元の学校での生活習慣に必要な力を身につける

カテゴリーについて

受容期

教員(担任)から、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら、活動する上での土台を築く時期

試行期

教員(担任)との関わりの中で、気持ちや行動の振り返りを行いながら、少しずつ取り組む時期

安定期

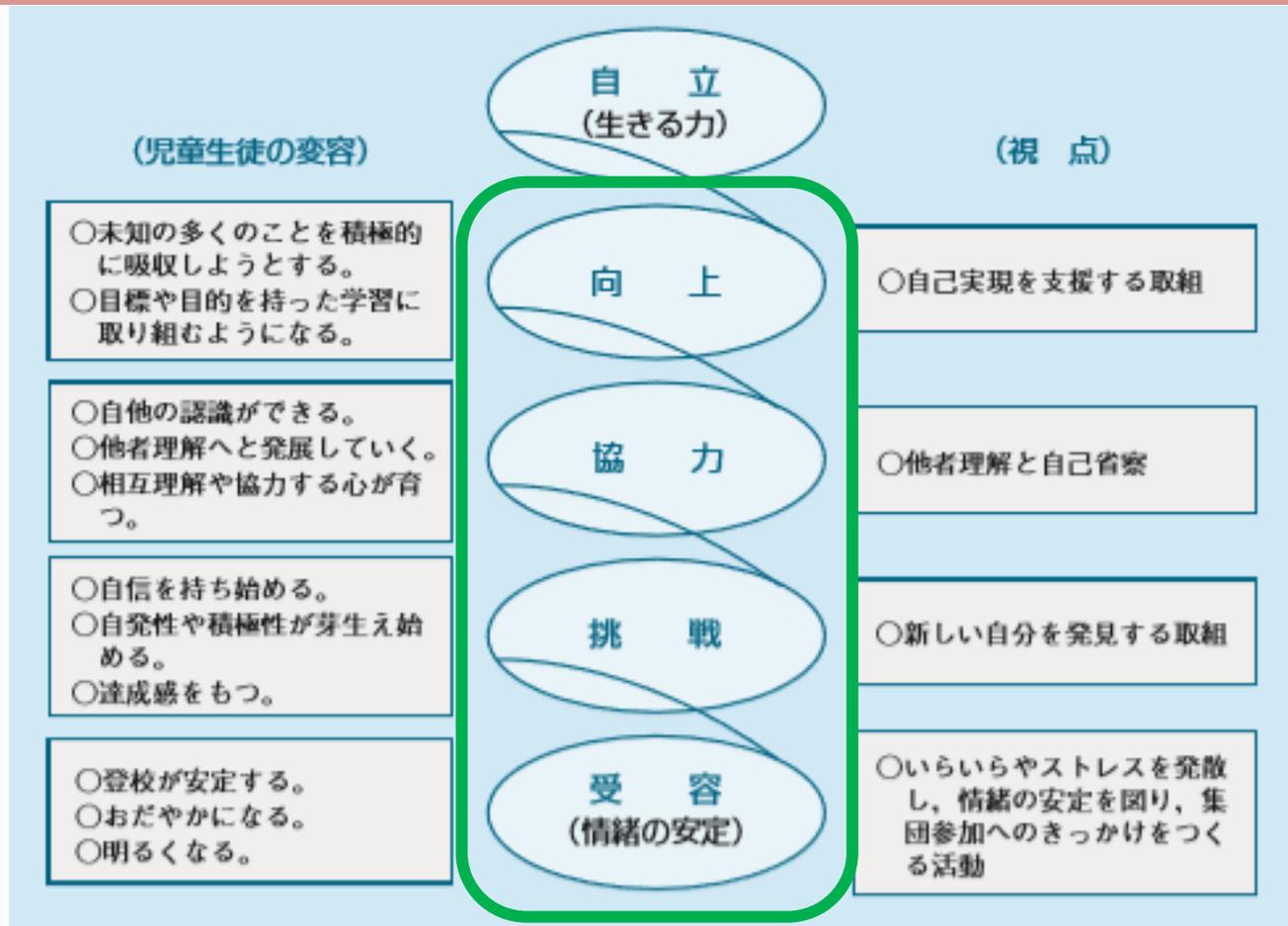
友達や社会との関わりの中で、自分にあった対処方法を見つけて行いながら、目標に向けて取り組む時期



児童生徒の状態に応じて変化させながら支援を実施
多階層的に支援

考察

特別支援学校(病弱)での実践



心身症等、不登校経験のある児童生徒への「受容」「挑戦」「協力」「向上」という4つの段階

出典:「慢性疾患、心身症、情緒障害及び行動障害を伴う不登校の子どもの教育支援に関するガイドブック(国立特別支援教育総合研究所,2006, P79-88)」を一部修正

保健室登校における養護教諭の役割

プロセスに応じた相談・対応の変化

受容・共感的な対応・
誠実な対応

教育的・
指導的対応

初期

↓
受容期

中期

↓
試行期

後期

↓
安定期

出典:「慢性疾患、心身症、情緒障害及び行動障害を伴う不登校の子どもの教育支援に関するガイドブック(国立特別支援教育総合研究所,2006, P79-88)」を一部修正

項目内での支援の連続性

受容期

教員(担任)から、気持ちを落ち着かせて共感や受容をしながら、活動する上での土台を築く時期

試行期

教員(担任)との関わりの中で、気持ちや行動の振り返りを行いながら、少しずつ取り組む時期

安定期

友達や社会との関わりの中で、自分にあった対処方法を見つけて行いながら、目標に向けて取り組む時期

1. 不安・悩み (94)

【支援・配慮のイメージ図】

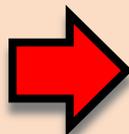
課題

- ・不安が強いため教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- ・見通しをもてずに自信がなく、新しい活動を嫌がる
- ・心配が強くて経験の幅が広がらないため、進路に不安がある

受容期 (37)

* 気持ちを聞く (18)

- ・話したい時にじっくり聴き、認める
- ・イライラすること等、感情を言葉にできるようにする



* 共感、理解する (4)

- ・その時に出来ていることをほめる
- ・否定的な言葉を使わずに接する

* 無理なく好きな活動ができるようにする (15)

- ・本人が好きな活動を行う
- ・授業はゆったり進めて会話を増やし、学習量を減らす
- ・不安になりやすい場所、時間は避ける

試行期 (35)



* 相談しながら行えるようにする (15)

- ・行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対処の仕方を一緒に考える
- ・不安や困難さを具体的に相談して共有していく

* 見通しをもたせる (15)

- ・学校のルール・日程、活動内容を板書や手元で視覚的に提示する
- ・初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明

* スモールステップで行う学習設定 (5)

- ・一つ一つ教見本を見せたり、練習したりしてから行う
- ・少しずつ離れて一人で活動できるように見守る

安定期 (22)

* 対処方法を考えて取り組めるようにする (8)

- ・ロールプレイを行い、不適切な行動を体験・不適切な行動を考えて練習する
- ・あらかじめ対策を立てられるようなスキルを身につける



* 将来に向けて学習する (5)

- ・高校進学についての知識を身につけられるようにする
- ・実習で困った場合の対応方法を身につけられるようにする

35. 登校・入室への抵抗感(33)

【支援・配慮のイメージ図】

課題

- ・学校に行くことや、人と関わるのが怖く、同学年の友だちに全く会えない。
- ・一対一の取組はできるが、教室に入れず、集団の活動ができない
- ・地元校での登校に抵抗が強い

受容期 (16)

* 学習場所を柔軟に変更する(9)

- ・他の児童生徒と会わない場所等、実態に合わせて場所を変更する
- ・体調に合わせて休憩しながら個室で学習する



* 共感、理解する(2)

- ・気持ち受け入れて、信頼関係を築いていく

* 無理なく好きな活動ができるようにする(5)

- ・簡単で好きな内容で学習したり、楽しい経験したりする

試行期 (12)



* 相談しながら行えるようにする(5)

- ・イライラした時の行動や学習内容、座席の位置等を相談していく

* 友達と関わるようにする(2)

- ・友達の様子を伝えたり、友達が登校を誘ったりする

* 少しずつ集団活動に参加していく(5)

- ・小集団や時間を決めて少しずつ参加していく

安定期 (5)

* 役割を持たせて活動する設定(1)

- ・学級で取り組んでいることに役割をもたせる

* 自分から伝えられるようにする(1)

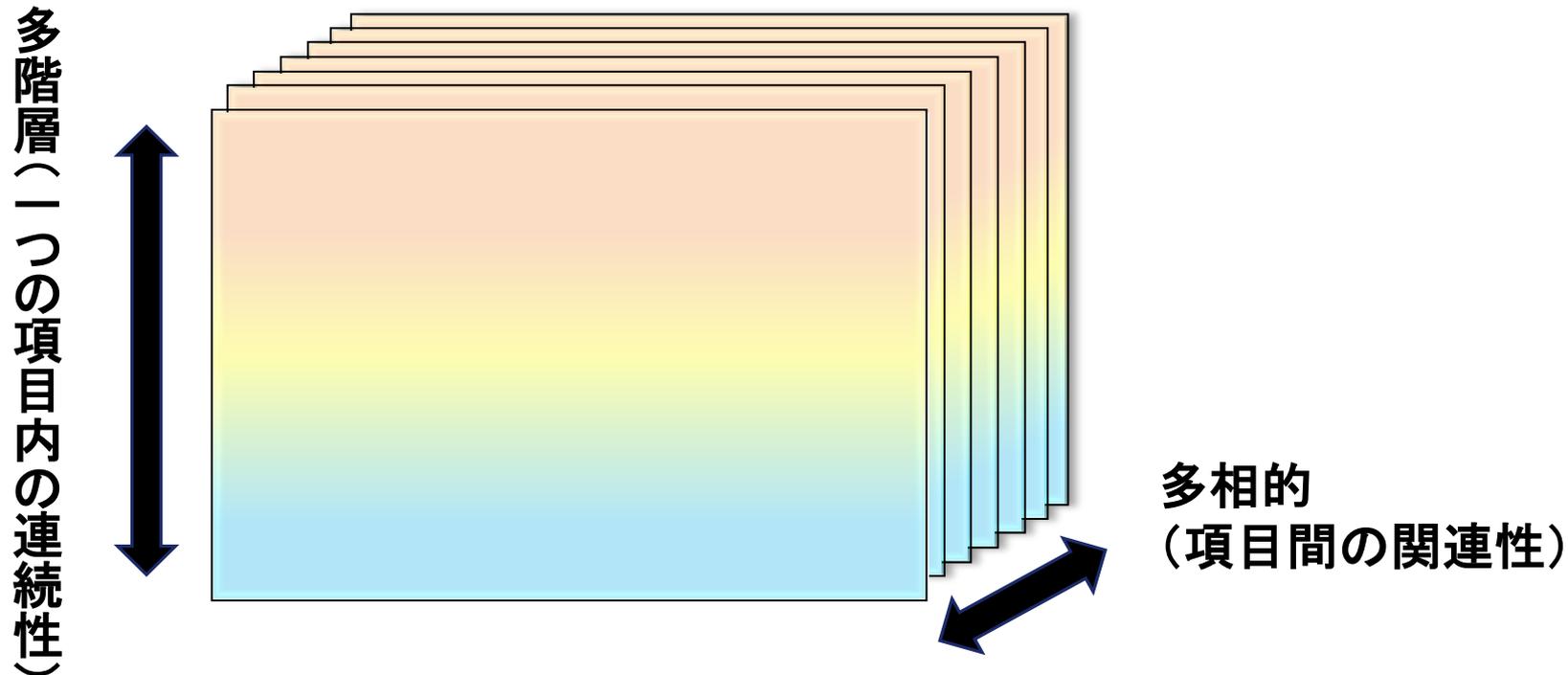
- ・体調が悪い時、イライラする時は自分から伝えられる



* 将来に向けて取り組む(3)

- ・将来の自分を想像し、地元の学校での生活習慣に必要な力を身につける

まとめ



・「教育的ニーズ」のそれぞれの項目を児童生徒の状況に応じて関連させながら支援を実施 ➡ **多相的支援**

・「教育的ニーズ」の項目内において、児童生徒の状態に応じて変化させながら支援を実施 ➡ **多階層支援**

連続性のある 多相的多階層支援

Continuous Multiphase and Multistage educational support

Co-MaMe: こまめ

アセスメントシートで実態把握し、 支援・配慮のイメージ図で支援・配慮を具体的に検討

教育的ニーズが記載された【アセスメントシート】

【支援・配慮のイメージ図】

| 心理 | | | | | |
|----|-------------------------------------|--|--|--|--|
| A1 | 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | | | | |
| A2 | 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | | | |
| A3 | こだわり (一つのことこだわると他のことが考えられない) | | | | |
| A4 | 意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない) | | | | |
| A5 | 自己理解 (何が辛いのが自分でも分からない) | | | | |
| A6 | 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | | | | |
| A7 | 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | | | |
| A8 | 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | | | | |
| A9 | 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | | | |

| 社会性 | | | | | |
|-----|--------------------------------------|--|--|--|--|
| B1 | 集団活動 (集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) | | | | |
| B2 | 社会のルールの理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で変更する) | | | | |
| B3 | コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | | | |
| B4 | 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | | | |
| B5 | 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | | | |
| B6 | 教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル) | | | | |
| B7 | 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | | | |
| B8 | 他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | | | |
| B9 | 他者への相談 (困った時に相談できない) | | | | |
| B10 | 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | | | |

| 学習 | | | | | |
|----|---------------------------------------|--|--|--|--|
| C1 | 学習状況 (勉強の仕方が分からない) | | | | |
| C2 | 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | | | |
| C3 | 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容が分からない) | | | | |
| C4 | 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | | | |
| C5 | 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | | | |
| C6 | 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | | | | |
| C7 | 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | | | |
| C8 | 経験 (生活経験が低い) | | | | |

| 身体 | | | | | |
|----|---------------------------------|--|--|--|--|
| D1 | 身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や嘔吐がおこる) | | | | |
| D2 | 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | | | |
| D3 | 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | | | |
| D4 | 多動性 (じっとしてられない、待てない) | | | | |
| D5 | 感覚過敏 (においに敏感、大きな音が嫌) | | | | |

| 自己管理 | | | | | |
|------|------------------------------------|--|--|--|--|
| F1 | 睡眠・生活リズム (断絶されず遅刻してしまうことが多い) | | | | |
| F2 | 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | | | |
| F3 | 服薬 (薬が手離せない、薬の管理が面倒) | | | | |
| F4 | 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | | | |
| F5 | ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | | | |

| 学校生活 | | | | | |
|------|-----------------------------------|--|--|--|--|
| E1 | 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | | | |
| E2 | 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | | | |
| E3 | 登校・入室への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない) | | | | |



国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education

連続性のある 多相的多階層支援

Continuous Multiphase and Multistage educational support

Co-MaMe: こまめ

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
病弱班

A-1. 不安・悩み (94)

課題

- 不安が強い教室に入れず、強迫的な行為や暴言・暴力がある
- 見通しをもてずに目標がなく、新しい活動を選がる
- 心配が強くて経験の幅が広がらないため、進捗に不安がある

受容期 (37)

- 気持ちを整える(18)**
 - 話したい時にじっくり聴き、認める
 - イライラすること等、感情を言葉にできるようにする
- 典禮、臨席する(4)**
 - その時に出来ることを促める
 - 否定的な言葉を使わずに接する
- 無難なく好きな活動ができるようにする(15)**
 - 本人が好きな活動を行う
 - 授業は中休みまでで食器を増やし、学習量を減らす
 - 不安になりにくい場所、時間は避ける

試行期 (35)

- 経験しながら行えるようにする(10)**
 - 行ったことを振り返り、落ち着ける方法や対応の仕方を一緒に考える
 - 不安や困難さを具体的に相談して共有していく
- スキルステップで行う学習準備(9)**
 - 一つ一つ教員を見せたり、練習したりしてから行う
 - 少しずつ慣れて一人で活動できるように見守る
- 覚悟しなせる(15)**
 - 学校のルール・日程、活動内容を指差しや手元で視覚的に提示する
 - 初めて体験すること、場所、内容を詳しく説明

安定期 (22)

- 対応方法を覚えて取り組めるようにする(8)**
 - 目標を細かく設定し、達成したら受容期に気付かせる
 - 目標をクリアできない原因やその対策を考えさせる
- 目標に向けて学習する(9)**
 - 高校進学についての知識を身に付けられるようにする
 - 実習で学んだ場合の対応方法を身に付けられるようにする

()内は件数、具体的な実施例・課題は代表的なもののみを示す

ポスター発表(病弱班)にて閲覧できますので、ぜひご覧ください。

研究成果の活用例

○「こころの病気のある児童生徒への
教育的支援普及セミナー」の実施

○「こころの病気のある児童生徒への
教育的支援ガイド(仮称)」を作成

○精神疾患等のこころの病気のある
児童生徒の指導と支援の事例集

全国病弱虚弱教育研究連盟への協力



- ・多くのこころの病気のある児童生徒が在籍する
小・中学校及び高等学校の教育に役立てる
- ・特別支援学校のセンター的機能等にて活用